

CUI サモスターE

CUI THERMOSTER E

一般名称	フェノールエポキシ樹脂系耐熱塗料				
適用規格					
系統	フェノールエポキシ樹脂系CUI(Corrosion Under Insulation)対策用耐熱塗料				
主な用途	【電力・プラント用】			など	
適用素材	鉄	亜鉛めっき	アルミ	ステンレス	コンクリート
	○	×	×	○	×

- 特長
- 1) 常時200℃までの耐熱性がある。
 - 2) 保温材または保冷材下の配管の防食用として適用できる。
 - 3) 耐薬品性・耐油性、耐海水性、耐水性が優れている。
 - 4) 厚塗り性が可能である。

塗料性状	塗料密度(比重)	1.46
	溶剤密度(比重)	0.86
	加熱残分	78%
法令など	ベース	硬化剤
劇物表示 (品名・含有率)	SDSをご参照ください	
労安法上の 表示有害物	SDSをご参照ください	
使用有機 溶剤種別	SDSをご参照ください	
消防法による 危険物区分	第2石油類(非水溶性)	第2石油類(非水溶性)
硬化剤の成分 による区分	変性脂肪族ポリアミン	
ホルムアルデヒド 放散等級	—	

製品情報	ベース	硬化剤	
荷姿	18kgセット	16.2kg	1.8kg
混合比(重量比)	ベース:硬化剤=9:1		
主な色(色相)	グレー(N-60近似)		

- 素地調整
- 被塗面は十分乾燥させ、汚れ等の不純物の付着がなく、清浄であること。
 - 水洗により塩分、水溶性汚染物質を除去する。適切な洗浄剤や溶剤で、油やグリースを除去する。
 - 詳細は塗装仕様書を参照ください。
 - ステンレス面へ塗装する場合は、非金属研掃材でスィープブラスト処理すること。

使用方法	調合方法	ベースに対して硬化剤を所定の割合になるまで少しずつかき混ぜながら加えたのち下記のシンナーを規定内で混入し、十分攪拌したのち使用する。		
	熟成時間	5~10℃の場合は10~15分間(10℃以上は不要)		
	使用シンナー	テクトEPシンナー		
	希釈率(重量比)	エアレス: 0~10wt% ハケ・ローラー: 0~5wt%		
	エアレススプレー 塗装条件	2次圧 チップNo.	10MPa(100kg/cm ²)以上、 163-619~623	(日本グレイ社製)

CUI サモスターE

CUI THERMOSTER E

使用量と膜厚

塗装方法	標準膜厚		標準使用量 注)
	Dry(μm)	Wet(μm)	g/㎡/回
エアレススプレー塗り	125	200	500
ハケ・ローラー塗り	70	125	225

注)標準使用量は、個々の条件によって異なります。

乾燥時間 塗装間隔 可使時間

項目		10℃	20℃	30℃	40℃		
乾燥時間	指触	3時間	2時間	1時間	1時間		
	半硬化	16時間	12時間	8時間	6時間		
標準塗装間隔 注)	最短	24時間	16時間	16時間	16時間		
	最長	7日	7日	7日	7日		
可使時間		8時間	8時間	5時間	3時間		

注)上記数値は施工管理上の参考データです。規格に規定がある場合はそれを優先してください。

実施工においては塗膜異常がないことを確認したのちに、次工程塗装してください。下記の主な適用上塗塗料を塗り重ねる場合です。

作業禁止条件 気温5℃以下、湿度(RH%)85以上

主な適用 下塗塗料	強溶剤:	—
	弱溶剤:	—
	ハイソリッド:	—
	水性:	—
主な適用 上塗塗料	強溶剤:	CUI サモスターE
	弱溶剤:	—
	ハイソリッド:	—
	水性:	—

耐熱温度(大気バクロ環境) 短時間 250℃耐用、長時間 200℃耐用
(短時間とは、概ね1時間以内を目安としてください。)

施工管理
用特数値

希釈率(wt%)	SVR(%)	WET/DRY係数
0	62.3	1.6
5	57.4	1.7
10	53.3	1.9

【理論WET膜厚】=【目標膜厚】÷【SVR】 式または
【理論WET膜厚】=【目標膜厚】×【WET/DRY係数】式で
希釈率毎の管理WET膜厚が算出できます。
※SVR(Solid Volume Ratio)体積固形分であります。

安全情報

- 安全情報に関する詳細な内容は安全データシート(SDS)をご参照ください。
- 容器に記載している「安全衛生上の注意事項」をご確認の上、ご使用ください。
- 塗料が皮膚につくと人によってはカブレを起こすことがあるので、皮膚につかないように取り扱いください。

貯蔵条件

本製品は特に水分の影響を受けないように保管してください。
高温多湿環境・直射日光を避け、密閉した状態で冷暗所で保管ください。

使用上の
注意事項

- 1)塗料が皮膚につくと人によってはカブレをおこすことがあるので、皮膚につかないように取り扱いください。
- 2)塗料の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は、SDS(安全データシート)を参照してください。
- 3)過剰な膜厚になった場合、設備稼働時に塗膜クラックが生じる危険性があります。